



# 2025 輝く県民活躍大賞 受賞活動の紹介

「輝く県民活躍大賞」は、

中高生、若者、NPOなどによる社会貢献活動や地域活性化のための取組を顕彰しています。

2025輝く県民活躍大賞には、**ジュニア・ユース部門**で3団体、**若者部門**で1団体、**一般社会貢献部門**で3団体の活動が受賞されました。

受賞された皆様は、それぞれの分野で先駆的な活動を展開し、地域の活性化に大きく貢献したまさに輝く県民の代表者です。

今回受賞した**7つの活動**をご紹介します。

## ジュニア・ユース部門

- 1 置賜農業高校食愛プロジェクトチーム 愛の輪広がれ！子ども食堂プロジェクト
- 2 鶴岡工業高等専門学校サービス・デザイン部 テクノ・パラメディック
- 3 はろハロプロジェクト 新庄商店街コスプレ歩行者天国イベント「はろハロ/はるハロ」

## 若者部門

- 4 やまがた学生情報局 学生メディア「やまがた学生情報局」

## 一般社会貢献部門

- 5 大山犬まつりからぐり保存会

地域で守り地域で受け継ぐ大山犬まつりからぐり山車・メツケ囃子の継承

- 6 骨髄バンクを支援するやまがたの会 骨髄バンクドナー登録会・普及啓発活動
- 7 特定非営利活動法人 小さな天文学者の会

宇宙を見て、感じて、楽しもう！天文で山形を元気にする活動



# 愛の輪広がれ!子ども食堂プロジェクト 置賜農業高校食愛プロジェクトチーム

## … 団体概要 …

### 代表者

代表 長倉 れい

### 所在地

川西町

### 主な活動分野

こどもの健全育成

### 設立年月

令和2年4月1日

### 会員数

12人(うち高校生7人)



## 受賞した活動について

こども農園での活動

### Q. どのような活動ですか。

川西町内の NPO 法人えき・まちネットこまつと連携して、子ども食堂の開催や野菜の栽培体験を中心としたこども農園を開催しています。また、夏野菜などを活用した弁当の試作、イオン東北グループやJAのご協力を受けるフードバンク活動、フードパントリーや食育を目的とした紙芝居や人形劇の制作と公演や地元食材を活かした食育調理教室の開催と多岐にわたっています。さらに、子ども食堂を通して居場所づくり活動や首都圏との食育交流、米沢栄養大学や他高校との連携活動も行っています。

### Q. いつからはじめた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

新型コロナウイルス感染症が拡大していた令和2(2020)年4月から、コロナ禍や物価高によって困窮している地域の子ども達を支援しようと、課題研究のテーマとして始めました。その後、先輩から後輩へと受け継がれ6年目を迎えます。

### Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

子ども食堂では、あいさつや食事メニューの説明を明るく明確に伝えられることを大切にしています。こども農園では野菜を育てる楽しさや収穫の喜びを共有できるように会話の中で心がけています。また、食育活動ではわかりやすく、楽しく学べる教材づくりをしています。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

子ども食堂ではお弁当配布が多いのですが、合同調理や食事会の時は、子ども達が一層生き生きとしていて、会話が弾んでいるようでした。こども農園での栽培や収穫は、子どもばかりでなく、親御さんにも大好評で、自分で食材を育てる大切さを改めて知ることができました。食育教材は、紙芝居や人形劇ばかりでなく、スゴロクやカルタなども評判で、工夫次第でいろんなものが作れると気付きました。

Q. 活動する中で困ったことはありますか。

進学や就職のために1学期後半から多忙になり、放課後や休日の活動が少し負担に感じるようになりました。また、子ども農園は栽培や収穫の適期と天気が一致しないことが多く、学校行事との重複もあり、調整が難しかったです。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

現在は、卒業した先輩方が積極的に協力してくれています。これからは他の高校生や大学生にも呼び掛けるなどの工夫をしていきたいです。



食育活動

### その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

地域活性化をめざし、まちなか巡りのガイド役や子どもまつりのスタッフとして活動しています。他にもアップサイクルプロジェクトという廃棄物を価値あるものに作り変える環境活動にも取り組んでいます。地域から要望や要請を受ける貢献活動に積極的に取り組む高校生のグループです！

### 今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

先輩から後輩へと活動を継続していくことはもちろんですが、他の高校や大学、さらにこの活動のOGやOBに呼び掛け、「食愛プロジェクト」を組織化していきたいと考えています。また、この活動の受益者であった子どもたちが成長して、スタッフとしてかかわっていくという、持続可能な体制づくりを心掛けていきたいです。



食育調理教室



## テクノ・パラメディック

鶴岡工業高等専門学校サービス・デザイン部

### … 団体概要 …

#### 代表者

部長 成澤 想太

#### 所在地

鶴岡市

#### 主な活動分野

まちづくりの推進

環境の保全 地域活性化

#### 設立年月

平成22年4月1日

#### 会員数

39人(うち学生36人)



活動時の集合写真

### 受賞した活動について

#### Q. どのような活動ですか。

高専で培った技術力を地域社会に還元する技術提供型のボランティア活動です。活動の舞台は、少子高齢化が進展する地方の中でも高齢化率が著しく高く、物流や生活面で大きな不便を来している酒田市飛島地区です。生活必需品である家電修理の無償修理活動を主軸とし、その他に環境保全、公益支援活動を現地合宿形式(3泊4日)で実施しています



フェイスシールドの寄贈

#### Q. いつからはじめた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

平成22(2010)年から活動をしています。きっかけは酒田市飛島地区には家電専門店がないこと、専門技術者が不在であることから、故障した家電製品の修理のためには本島までの輸送が必要だと思ったからです。また、普段勉強していることを活かすことで地域貢献ができるのではないかと考えたからです。

#### Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

依頼があった家電修理や環境保全などの活動に対して、一人一人責任をもって最後まで丁寧に取り組むことを大切にしています。また、4日間の限られた期間での活動ですので、各チームリーダーを中心にチームでコミュニケーションをとること大切にし、計画的に進められるようにしています。



環境整備活動



リーダーミーティング



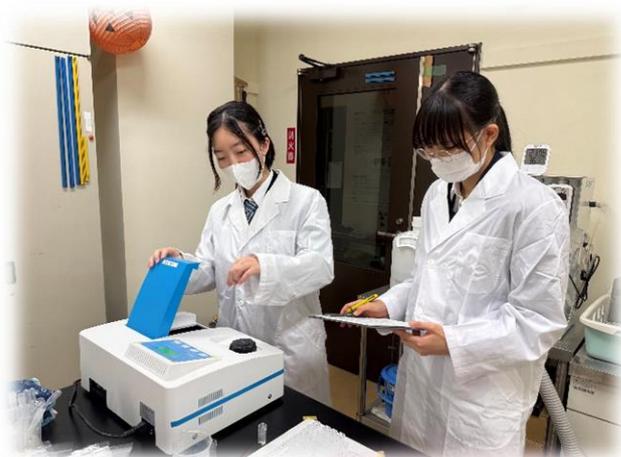
観光用自転車の保全修理

**Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。**

この活動の目的のひとつに「市販製品から“ものづくり”を学ぶ」ことがあります。消費者の支持を得る製品は、機能や構造が洗練されていることに気付かされます。また、作業完了後は島民の方に故障箇所や故障に至った原因・修理状況などを説明し、預かった物をお返ししていますが、わかりやすく、かつ正しく伝える難しさなど、コミュニケーションの重要性を感じています。

**Q. 活動する中で困ったことはありますか。**

飛島地区にはフェリーで移動しています。そのため天候に左右されます。天候不良でフェリーが欠航になる場合は全体のスケジュールを変更しなければなりません。事前に第二プランは考えて臨んでいます。現地での判断や変更が必要になります。そういった場合は、チームリーダーを中心に話し合いをして臨機応変に対応しています。



有機肥料の開発のための土壌分析

**Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。**

活動当初は10名程度の活動メンバーでしたが、2年目からは参加希望者が増え、30名前後での活動となっています。学内での活動紹介や学校ホームページで活動報告をしています。また、学外のイベント等にも参加し、活動のPRをしています。今後、この活動に興味を持ってくれる人や鶴岡高専に興味を持ってくれる人が増えるとうれしいです。

**その他の活動について**

**Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。**

酒田市飛島地区での活動は、家電修理の無償修理など電気や機械などの技術を主要としています。化学が活躍する活動もあります。近年、農家の高齢化により耕作放棄地が増加していますが、地域農家と共に土壌を復活させようと土壌分析を数年にわたって実施し、外来種ブラックバスを原料とする新規有機肥料開発にも取り組んでいます。令和7年度はSNS映えスポットを制作することも実施しました。

**今後について**

**Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。**

サービス・デザイン部はボランティア活動だけでなく、自分たちが持っている知識や技術を地域に還元し、地域課題の解決に積極的に挑戦していきたいと思っています。技術提供型のボランティア活動は引き続き継続しつつ、私たちが住む、この山形の地域の方々の生活の質(QOL)が向上するための活動や提案を行っていきます！



# 新庄商店街コスプレ 歩行者天国イベント「はろハロ/はるハロ」 はろハロプロジェクト

## … 団体概要 …

### 代表者

代表 荒井 優那

### 所在地

新庄市

### 主な活動分野

若者の活躍  
街づくりの推進  
商店街活性化  
観光の振興

### 設立年月

令和5年7月5日

### 会員数

17人(うち学生9人)



イベント時の集合写真

## 受賞した活動について

### Q. どのような活動ですか。

担い手が無くなってしまった商店街のイベントを引き継ぎ、地元の高校生と中学生が中心となって企画・運営しているコスプレイベントです。当日は、歩行者天国を実施して、イベントエリアを広げるとともに、商店街の空き店舗などを提供していただき撮影スポットに活用しています。

### Q. いつからはじめた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

きっかけは、Fiesta(新庄 TCM 株式会社)が支援する地域のイベントに参加して、私たちも何か作り出せるのではないかと思ったからです。管理人の方と企画を相談して、私たちと同じくらいの年齢の人たちが楽しめるものを作ることになりました。

令和5(2023)年6月頃から企画作りをはじめ、10月に第1回「はろハロ」を開催しました。初開催にもかかわらず参加者が東北各県から100名を超え、多くの方に楽しんで頂けてうれしかったのを今でも覚えています。

### Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

イベントに参加してくださるコスプレイヤーさんやカメラマンさんはもちろん、運営スタッフである私たち自身も楽しめるイベント作りを大切にしています。関わるすべての人が笑顔になれる、温かく魅力あるイベントを目指しています。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

イベントを自分たちで作りに上げる楽しさに気付きました。多くの人に楽しんでもらうための企画や運営を考えるのは大変でしたが、その分、終了後の達成感は大きく、心から楽しいと感じました。

そして、私たち学生の取り組みでも、遠い新庄市に東北各県や新潟、関東の人達が来てくれたのを体験し、行動を起こすことで何か変えられると感じたことです。



イベントの企画作成



商店街のイベントコンテンツを復活



新庄雪まつり(戸澤神社での巫女役)

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

コスプレをする楽しさや魅力を周りの友人などに積極的に伝えていきます。実際の写真や体験談を共有することで興味を持ってもらい、イベントや活動に参加してくれる仲間を少しずつ増やしています。

### その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

はろハロ以外の地域イベントにも積極的に協力しています。コスプレコンテンツの提供や企画の補助に加え、はろハロでのステージ MC の経験から地域イベントの MC も行い、イベントを盛り上げられるように努めています。地域で様々なことに関わって、良いイベント作りに活かすとともに、色々なことに挑戦できる場にもしています。



イベント準備

Q. 活動する中で困ったことはありますか。

SNS での発信に取り組んでいる中で、イベントについて心ない言葉をかけられることもありました。とても悔しく悲しい気持ちになりましたが、仲間と支え合い、改善点を見つめなおすきっかけにもなり、前向きに活動を続けています。

### 今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

はろハロを通じて、新庄市やコスプレの魅力をより多くの方に知ってもらうことを目標に活動を続けていきたいと考えています。これからも地域との連携を深め、継続的で魅力あるイベント作りを目指していきたいと思ひます。



### … 団体概要 …

#### 代表者

代表 齋喜 祥吾

#### 所在地

山形市

#### 主な活動分野

Webメディア運営

SNSの発信

#### 設立年月

令和2年12月5日

#### 会員数

7人(うち若者7人)

## 学生メディア「やまがた学生情報局」 やまがた学生情報局



ラジオ収録の様子

### 受賞した活動について

#### Q. どのような活動ですか。

1 つ目は Web メディア「やまがた学生情報局」の運営です。山形の学生をターゲットに、山形のグルメ・観光・イベント・大学サークルの紹介や、学生生活で役立つ情報を発信しています。2 つ目は SNS での情報発信です。特に「やまがた学生グルメ」という Instagram アカウントでは、メンバー自ら足を運んだ山形県内のおすすめグルメを紹介しています。

#### Q. いつからはじめた活動ですか。

#### 活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

令和2(2020)年 12 月、山形大学工学部に所属する 2 人の学生によって立ち上げられました。山形の学生生活を楽しむ一方で、「山形にはなにもない」と感じる学生が多い現状に課題を感じたことがキッカケです。学生生活の中に隠れているちょっとした面白い気付きや、「こんな楽しみ方もあるよ」というちょっとした提案を出来たらいいなと思い、活動を始めました。

#### Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

山形にある魅力を単に「紹介」するだけではなく、『学生生活をちょっと面白くする』というスローガンのもと、学生目線で魅力を「発掘」することを大切にしています。そのため、発信側である私たち自身が学生生活を楽しみ、その中で感じたリアルな気付きや体験を言葉にすることが重要だと考えています。学生だからこそ共感できる視点を活かし、正直で友達感覚の発信を心掛けています。



置賜総合支庁との連携協定

## Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

SNS の発展があるように、人々が情報を取得するキッカケは、「検索」よりも「発見」が多くなっていると感じました。SNS にある様々な情報の中で、やまがた学生情報局を発見していただくために、私たちは記事のタイトル・サムネイル、SNS の投稿画像にも工夫を凝らしています。目を惹くキャッチーな言葉、テキストフォント、配色はメンバー自身が考えて、学びながら制作しています。

## Q. 活動する中で困ったことはありますか。

Web 記事のテーマが決まった後、内容の構成や展開を考える段階で悩むことが多くありました。その際は「この記事届けたい学生は誰か」「どのような悩みを解決したいのか」を振り返るようにしています。目的を明確化することで情報を整理でき、読者にとって分かりやすく質の高い記事に繋がっています。



イベント登壇



広報誌「WA-CHA」に掲載



大学サークルの取材

## Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

より多くの学生に活動を知ってもらうため、特に SNS を活用した募集に力を入れています。その際は、活動内容だけでなく、メンバーの雰囲気や取り組む姿勢が伝わる投稿を意識しています。また、長く活動を続けていけるよう、活動方針や目的の共有を大切にしています。

## その他の活動について

### Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

やまがた学生情報局の強みは「山形の学生をターゲットにしたメディア」であり「学生視点での発信」ができる点です。飲食店やイベント・活動を学生向け PR、イベント運営の協力など、様々なご相談を受け付けております。まずはお気軽に、メールやサイトのお問い合わせ、SNS の DM からご連絡ください。

## 今後について

### Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

連携の強化です。これまで取材やイベント登壇、県との連携、メディア出演などを実現できたのは、地域の方々との「ご縁」があり、更にご縁を「繋いで」いただいたからです。私たちの使命を達成するには、こういった組織や学校、地域を越えた連携が重要だと感じています。そのため、やまがた学生情報局は自らの枠を飛び越えて、繋がりを広げ深めることで、企画・体験・発信による新たな「楽しみ」を創出し、より多くの学生が「山形での生活を楽しめる」キッカケとなる組織を目指していきます。



打ち合わせ



# 地域で守り地域で受け継ぐ 大山犬まつりの からぐり山車・メツケ囃子の継承 大山犬まつり からぐり保存会

## … 団体概要 …

### 代表者

会長 佐藤 均

### 所在地

鶴岡市

### 主な活動分野

地域传统文化の継承

地域活性化

### 設立年月

昭和56年4月1日

### 会員数

47人



祭りでの集合写真

## 受賞した活動について

### Q. どのような活動ですか。

からぐり保存会は、毎年6月5日に鶴岡市大山地区で行われる「梶尾神社例大祭」(通称:大山犬まつり)のトリを飾るからぐり(山車)の製作や当日の運行を行う製作隊と、そのからぐりに乗って太鼓囃子を演奏する子ども達と共に篠笛を演奏する御囃子隊の活動団体になります。

### Q. いつからはじめた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

昭和56年に当時の大山商工会青年部が結成したのが始まりになり、令和8年で45年になります。戦前は9台のからぐりがあったそうですが、戦中に多くが失われ途絶えていました。発足当時は梶尾神社に安良町のからぐりが眠っていることが分かり、復活させてお祭りに活気を取り戻そうという気運が高まり、活動が始まりました。



練習風景

(左:安良町囃子  
下:下本町囃子)



### Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

「継続が大事」だということをいつも気に留めています。伝統や街の歴史は、地域の貴重な財産です。一度途絶えてしまったものを復活させることは大変なことですし、それを続けていくためには地域の人達の協力と想いが無ければできません。なによりみんなが「楽しい！ やってよかった！」と感じられるように活動しようという話をしています。

**Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。**

犬まつりは「上頭」「大山頭」「下頭」の3つの頭屋が各町内を毎年順番で廻りますが、頭屋になった町内会では、頭屋送りの6月6日から例大祭が行われる翌年の6月5日までの丸1年間様々な祭事が行われます。その間、町内会の人達が協力して祭事を支えることとなりますが、「次に祭事を回してくれる人達が少しでも困らないように」と、町内会ごと1年間の記録を残す工夫をしてくれるようになりました。これも協力してくれる町内会の方達に気持ちがあればできない取組みで、本当にありがたいですし私達も勉強になります。



祭りの様子

**Q. 活動する中で困ったことはありますか。**

御囃子の話で言うと、からぐりは復活できたものの笛囃子の演奏ができる人がおらず、しばらく録音したテープで凌いだ時代がありました。「なんとかして自分達の手でお囃子も復活させたい」と考えていた時に助けてくれたのが、櫛引地域の国指定重要無形民俗文化財である黒川能の方達でした。

楽譜すらない笛囃子復活のため集まった初期メンバーに、黒川能のお囃子を演奏する方達が篠笛を根気強く指導してくれました。今では御囃子隊のメンバーも増え、地域の人だけで演奏できるようになりました。今でも黒川能の方達とは交流があり、私たちにとってとても大切な関係です。



課外授業



製作隊が活動する尾浦の館

**Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。**

昔は地道な声かけで増やしてきましたが、最近では「お父さんがからぐりの曳手をしていておもしろそうだった!」、「からぐりに乗って太鼓を叩いたけど、自分も笛を吹いてまた参加したい!」という子ども達が少しずつ増え、積極的に保存会の活動に関わってくれるようになっていきます。

**その他の活動について**

**Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。**

毎年お祭りの前後に、大山保育園の園児と大山小学校の子どもたちが課外授業として「大山犬まつり」を学ぶ時間があります。実際にお祭りに参加する・した子も多いので、自身の思いを振り返りながら会長の話を聞く子ども達は、地域をととても誇らしく思っているような表情をするのが印象的です。

**今後について**

**Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。**

世代を越えて、これからも地域の力で地域の祭りが行えるように地道に続けていきたいですし、からぐりで大山に人が集まり、大山の魅力を感じてもらえるきっかけになるような楽しい活動にしていきたいです。



# 骨髄バンクドナー登録会・普及啓発活動

## 骨髄バンクを支援するやまがたの会

### … 団体概要 …

#### 代表者

会長 小野寺 南波子

#### 所在地

山形市

#### 主な活動分野

骨髄バンクのドナー登録を増やすため、ドナー登録会の説明員活動や、高校や大学等、各種団体等へ出向き出前講座で啓蒙活動し継続している。

#### 設立年月

平成7年2月12日

#### 会員数

52人



ドナー登録についての説明

### 受賞した活動について

#### Q. どのような活動ですか。

当会の名前の通り、骨髄バンクを支援する活動です。血液疾患によって骨髄移植を必要とする患者さんたちが待ち望んでいるドナーを、一日でも早く見つけるためには、登録者数を増やさなければなりません。そのためにドナー登録会会場での説明や、高校・大学や会社等に出向いて講演を行い、市民活動祭りなどに出店してPR活動をしていま

#### Q. いつからはじめた活動ですか。

#### 活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

平成7(1995)年に創設され、令和7(2025)年に記念すべき30周年を迎えました。会員の中には、お子さんを亡くされた方、骨髄移植を経験し助かった方、ドナーとして提供した方などがいます。もし身内に病人がいたら、「悔しい思いをしてほしくない。元気になってほしい」、「見ず知らずの誰かでも助かってほしい」と、様々な立場でそれぞれの想いで活動を始めています。

#### Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

第一にドナー登録の必要性と、提供する際の入院や骨髄採取の方法などを知っていただくことです。骨髄バンクに登録する意味や、登録したらすぐ骨髄提供するというわけではないこと、自由意思で誰かのために提供してほしいことなどについて理解してもらうことが大切です。

そして、ドナー登録会の説明員の多くが働いているため、スケジュールを調整することも大切です。



「山形のうたごえ祭典」への参加



「山形市民活動祭り」への参加



学校での出前講座



医療講演会

**Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。**

かつては不治の病だった血液疾患(白血病など)も、骨髄移植の成功率が80%と今では治せる時代になっており、社会復帰している人も多くいます。

一方で、実際にドナー候補(骨髄提供者)になった時、詳しい検査や提供するための入院に数日必要となるため、仕事を休めないなどの理由で断る方が約54%いらっしゃることを知りました。

骨髄移植の理解を広げていくためには、患者さんや提供者の方々による体験談やスピーチに勝るものはないと気がつきました。

**Q. 活動する中で困ったことはありますか。**

説明員の人数を増やしたいと考えていますが、ドナー登録会の説明員は、研修を受けて資格を取らなければなりません。当初は説明員研修会を年一回、県(健康福祉部医療政策課)で開催されていましたが、現在は当会主催の説明員研修会も年一回開催し、緩和されてきましたが十分とは言えない現状です。当会の会長自身も子どもを亡くした経験を、全国で話してドナー登録の必要性を伝え続けてきました。まずは何事も知ることから”だと思っています。

**Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。**

発足当時は患者さん、その家族、知り合いが多かったのですが、講演会・「MAMO のメッセージ展」など元患者さんの遺作展・映画上映会など開催して徐々にその輪を広げてきました。東日本大震災、コロナの影響で、会を縮小せざるを得ない時期もありましたが、令和7年は、より多くの方々に活動を知っていただく機会を設けることができました。移植し元気になった娘の体験を基に母親が作成した映画「いちばん逢いたい人」を文翔館、伝国の杜で上映したり、8月には、山形大学附属病院の展示スペース Yume ギャラリーで、いのちの贈り物展・患者さんとドナーさんのお手紙展を展示したりしました。さらに、県庁の一階 展示スペースや遊学館などで10月～11月、同様の展示を行いました。

**その他の活動について**

**Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。**

会を始めたころは患者相談の会『WAの会』を開催し、患者相談も受けていました。現在は会長(小野寺南波子)が個人的に患者相談を受けています。また、情報発信にも力を入れており、年数回、会報を発行したり、ホームページやSNSに掲載したりしています。

**今後について**

**Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。**

若者(高校・大学など)に知っていただく出前講座を続けていきたいと思います。また、ミュージカル専門学校の学生が、骨髄バンクの必要性を訴えるミュージカルを1994年から毎年各地で公演しています。山形県内の若者たちと協働し、出来るのではないかと考えています。

企業主の皆様には、従業員がドナーになった時、特別休暇として認める「骨髄ドナー特別休暇制度」を導入していただきたいと思います。当会も企業主の皆さんに働きかけたいと考えています。

ぜひ、ご協力をお願い申し上げます。



# 宇宙を見て、感じて、楽しもう！ 天文で山形を元気にする活動

特定非営利活動法人 小さな天文学者の会

## … 団体概要 …

代表者

理事長 中森 健之

所在地

山形市

主な活動分野

学術、文化・芸術、  
スポーツの振興  
社会教育の推進

設立年月

平成10年11月17日

会員数

230人



「イベント「ゆかたで天文台」での集合写真

## 受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

当会は「宇宙を見て、感じて、楽しもう！」をスローガンに、一般市民向けの星空観望会や最前線宇宙講演会、小学校などへの出前授業を行う市民参加型の非営利活動団体です。山形大学小白川キャンパスのネーミングライツ施設「ニクニドームやまがた」を擁する「やまがた天文台」では星空案内人が一般向けの星空案内(観望・解説)を毎週実施し、河北町の「サハトベに花」のプラネタリウムを活用した活動なども行っています。首都圏にも活動拠点がおり、オンラインの勉強会も実施しています。



はやぶさ2実物大模型展示会

Q. いつからはじめた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

きっかけは平成10(1998)年に山形市で開催された日本天文学会の記念講演会です。来場者アンケートから、市民の星空や宇宙への興味関心が想像以上に高いことが分かりました。そこで地域で継続的に天文・宇宙を楽しめる場を作りたいと考え、山形大学の宇宙物理研究室が中心となって流星群の観望会などを開催したのが始まりです。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

当会の合言葉である「ハッピー二乗の法則」を大切にしています。宇宙を学んで楽しい(1つ目のハッピー)、その楽しさを誰かに伝えて喜んでもらい、自分も嬉しくなる(2つ目のハッピー)。この喜びが次の人へとどんどん広がっていくことを目指しています。担い手の育成だけでなく、宇宙に親しむきっかけを増やし、宇宙好きの裾野を広げることが基本方針です。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

活動を通じて、性別や年齢を問わず「少しでも宇宙を知りたい」という方の参加が多いことに気づきました。機材や専門的な情報を求める方だけではなく、わかりやすい案内や対話を通じて気軽に楽しみたい方も多く、説明の工夫や参加しやすいイベント運営が重要だと感じています。また、活動をきっかけに参加者同士のつながりが生まれ、コミュニティ形成に繋がっていることも分かりました。



サハトベに花でのワークショップ

Q. 活動する中で困ったことはありますか。

長期的には、担い手の世代交代やライフステージの変化、異動などで運営体制が手薄になりがちな点が課題です。運営業務の整理や事務手続きのオンライン化など、負担を減らす工夫を進めています。加えてコロナ禍では活動が停滞しましたが、再開後は地道に活動や会のアピールなどを行い、会員数や参加者も戻りつつあります。



四次元宇宙シアター

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

当会は山形大学を拠点にしており、学生会員が活動の主力です。学生会員有志が自主的に活動し、新歓や学園祭などでの発信を通じて参加の輪を広げています。一般会員についても、観望会やイベントなどの活動を継続し、市民と当会が触れ合う機会を増やすことが重要だと考えています。

### その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

山形大学小白川キャンパスの「やまがた天文台」では、魅力的な星空案内人が毎週土曜日(不定休あり)にそれぞれの個性を生かした星空観望や解説を行っており、どなたでも参加できます。毎年秋ごろには「星のソムリエ®」の養成講座である「やさしい宇宙講座」も実施しています。また、首都圏でも観望会や星のソムリエ®養成講座などの活動を行っています。詳しくはウェブサイト(<https://sola.or.jp/>)をご覧ください。

### 今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

天文に馴染みのない方にも宇宙を身近に楽しんでもらえるよう、活動の裾野を広げていきます。プラネタリウムなどに行きにくい支援学校の生徒向けのイベントの実施に加え、町おこしや婚活イベント等でも星空案内を提供し、地域の交流の場作りに協力していきます。



植木市観望会

## 2025輝く県民活躍大賞 受賞活動の紹介

令和8年3月10日 発行

<ジュニア・ユース部門、一般社会貢献部門>

山形県防災くらし安心部 消費生活・地域安全課

県民活動・防災ボランティア支援室

<若者部門>

山形県しあわせ子育て応援部 多様性・女性若者活躍課

※ 記載の団体概要は、受賞(令和7年11月)時点のものです。